

地域支援

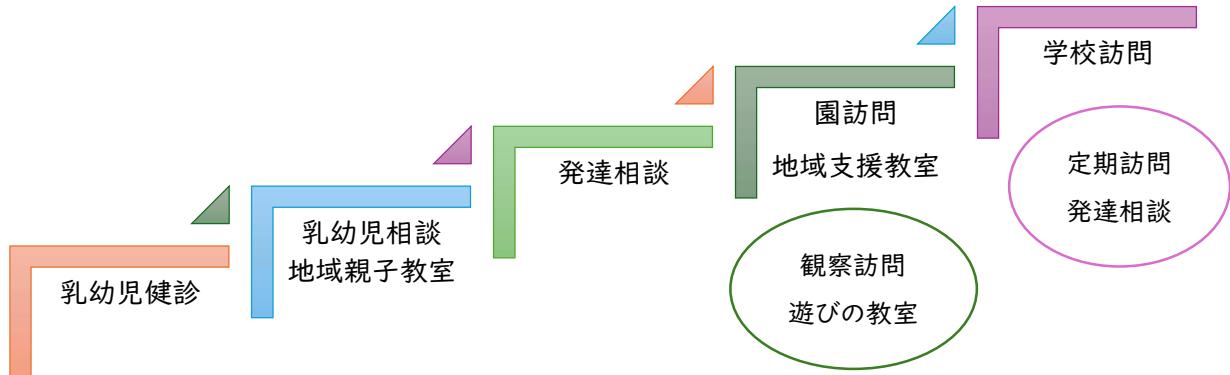
「園訪問事業・学校訪問事業」

*支援をするうえで大切なことは、連続性です。「いつから、どこで、どのように」という支援の方法や時期も大切ですが、「いつからでも、些細なことから」という繋がりからスタートできること、場合もあります。

*地域支援から繋がることも多くあると思っています。乳幼児健診からスタートする発達のサポートを保健センターから各地域の保育園・幼稚園・子ども園・小学校・中学校と連携し、行っている事業です。園を訪問し、園で過ごす様子を心理士が訪問観察し、実際の園生活の中で支援、サポートできることを園、担任の先生と共有させてもらう事業です。「個別で見てもらうには、少し抵抗が…」「うちの子、大丈夫だと思っているけど…」という方もぜひ、ご活用ください。



*小学校・中学校にも学校訪問をさせてもらっています。保育園・幼稚園・子ども園に在園中、相談をされていたお子様については、保護者の方の希望があれば、小学校に情報の引継ぎをすることもできます。また、定期的に学校を訪問させてもらい、園訪問事業同様、学校で学習する様子を直接、心理士が確認し、担任や特別支援コーディネーターの先生方と学習のサポートの方法について相談させてもらっています。



「地域啓発勉強会」

*発達の支援を行う上で大切な視点、それは協同作業、専門職による連携です。地域でお子様と一緒に見守ってくださる保健師・助産師・歯科衛生士・保育士・教師等、様々な職種の方と協働・連携することでよりよい「発達」の「支援」が可能となります。もちろん、保護者の方にご協力いただいていることはすべての支援の出発点です。

より良き協働・連携を行っていくには、やはり「学び」は重要となってきます。しかし、日々の業務が忙しく、なかなか研修にも参加できない、費用がかかる…といった声を耳にすることがあります。同じ地域で働く専門職の方々と「発達」を支えていくために、年間4回程度、地域の専門職、保護者の方々を対象とした勉強会を実施しています。医師や大学教員、学校教諭の方々を講師としてお招きし、地域の皆様と共に学ぶ機会を設けています。

